
敬礼

ガルムン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

敬礼

【Nコード】

N8485N

【作者名】

ガルムン

【あらすじ】

第二次世界大戦後期、愛する人を守りたいと願う特攻隊員の物語。

照りつける真夏の太陽のあまりの眩しさに、要洋一は思わず目をそらした。

基地から4時間、蒸し暑いを通り越し、サウナのようになった汽車からやっと開放された体を、大きく背伸びさせる。

同じ駅のホームを見渡すと、中年ほどの男が、たくさんの人に見送られているのが目に入った。

「清水良一君の出征を記念して、万歳三唱で見送ろう」とおそらく退役軍人であろう老人が、力のこもった声を駅に響かせた。

男は表情を変えるわけでもなく、ただ悲しそうな目をしてそれを聞いている。

男の前にたつて、泣いている女は、男の妻だろうか。
その腕には小さな赤ん坊が抱えられていた。

万歳三唱を体に受けながら、汽車に乗り込んだ男は敬礼をしている。
る。

それは誰に敬礼しているんだろう。どんな思いがこもっているんだろう。

生き残れ。
男を乗せた列車は、遠くへ、遠くへ走っていった。

長い長い坂を上り切り、久しぶりに故郷に帰って来た要だったが、あまりにも変わり果てたその姿に、思わず息を詰めさせた。

あたりに建っていたはずの建物が瓦礫の山と化し、残っている建物も黒焦げになった柱だけを、情けなく立てていた。

おそらく、アメリカ軍の焼夷弾によって焼かれたのだろう。
3000度の熱で焼き尽くされれば、人も建物も原型をとどめて

はいられない。

彼女の家は大丈夫だろうか　必然的に浮かんできた考えは、彼女の家に向かう足を急がせた。

しばらくすると、彼女の家が見えてきた。

焼かれていない。

安堵してその場に座りたい衝動に駆られていると、不意に後ろから声をかけられた。

「洋一さん？」と消え入るような小さな声でつぶやいた小柄な女性は、要が捜し求めていた人だった。

振り向いて声をかけようとした幸一は、彼女の姿を見て絶句した。手を吊り下げ、目の周りに何十も包帯を巻いたその姿は、あまりにも痛々しく、戦争というものを物語っていた。

要はその時、言わないで逝こうと決めた。

俺が彼女を守るんだ。

敵の空母に突っ込んで、1日でも、1秒でも、守りたい。

戦争と日常を引き離してあげたい。

拳を握り締めた要は、誰にも聞こえないよう「絶対」とつぶやいて、誓った。

「実は軍需工場で働いているときに逃げ遅れちゃったんです。またどじ踏んじゃって」

と、無理に冗談めかして笑う姿が、要には悲しく、そして愛おしく見えた。

どうしたの、という表情を見せた彼女に悟られないように、無理に笑顔を作ると、

「久しぶりに休暇をもらえたから、一目会いたいと思って」といった。

彼女は少し頬を赤くすると、「こんなところで話すのもなんですから上がってください」と自宅を指差した。

「……実はすぐ行かなくちゃならないんだ」とゆっくりとかみ締めるように要は言った。

「家族と待ち合わせているから行かなきゃだめなんだ」

要は嘘を重ねた。

家族はみんな死んでいる。会いたい人もいなかった。ただ、これ以上彼女を見ているのがつらかったのだ。戦争によって変えられていく彼女を。

「じゃあ、もう行くね」と言った要を、彼女が「待って」と呼び止めると、なにか布を抱えて走ってくる。

「これ、千人針です！と言ってもほとんどは私が縫ったんですけどね」と笑いながら要に渡した。

要は、「ありがとう」とだけつぶやくと、敬礼をした。

生きてくれ、という願をこめた別れの敬礼を。

彼女はそれを見て、笑顔で敬礼を返した。

ぎこちない動きをしながら、怪我をしていない手を、額にあてる。

その敬礼は、どんな思いがこめられているんだろう。

その日の空はとても蒼く、澄んでいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8485n/>

敬礼

2010年10月21日20時31分発行